

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
大阪ハイテクノロジー専門学校	昭和62年4月1日	近藤 雅臣	〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 大阪滋慶学園	昭和62年4月1日	浮舟 邦彦	〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6150-1301				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	鍼灸スポーツ学科	平成22年文部科学省告示第152号	-			
学科の目的	本学科は、中医学に基づいた鍼灸治療を中心に、東洋医学と西洋医学の両面からアプローチできる鍼灸治療の専門家、スポーツ愛好家から競技スポーツ選手までをサポートできる鍼灸師の養成を、業界と連携のもと、実践的な技術・知識の習得を目指す。						
認定年月日	平成26年 3月31日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3,450時間	2,160時間	420時間	870時間	0時間	0時間
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90人	89人	0人	7人	11人	18人		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験の素点、小テスト、実習実技、レポート等を総合的に評価			
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～9月9日 ■冬季:12月26日～1月8日 ■学年末:2月28日～3月31日 ※コロナ感染症の影響により変更予定		卒業・進級条件	所定の科目のすべてに合格し、かつ出席率が67%を超えていること。			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 早期より放課後補習を実施している。毎月実施の模擬試験結果より成績下位学生を中心に、個別面談を実施。個人成績表から強化科目別に指導。		課外活動	■課外活動の種類 学生執行役員を選出し、ハイテクフェスティバル・学園祭の運営を行う。また、G20・大阪マラソンクリーンUP作戦に各クラス学生環境整備委員と有志を募りボランティアとして参加 ■サークル活動: 有			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成31年度卒業生) つばさ鍼灸整骨院、ムーヴアクション株式会社、株式会社AZ他 ■就職指導内容 求人票から治療院見学への指導、履歴書作成指導 面接練習など		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者にに関する令和3年5月1日時点の情報)			
	■卒業生数	22人		資格・検定名	種	受験者数	合格者数
	■就職希望者数	21人		はり師きゆう師	②	22人	19人
	■就職者数	21人		アスレティックトレーナー	②	12人	5人
	■就職率	100%		健康運動実践指導者	②	17人	14人
	■卒業者に占める就職者の割合	95.5%		JATI-ATI 試験	②	24人	19人
	■その他 ・他職種正社員で就職:1名			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するかどうか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
	(令和2年度卒業者にに関する令和3年5月1日時点の情報)						
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 1.3%		令和2年4月1日時点において、在学者80名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者78名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ・進路変更				
	■中退防止・中退者支援のための取組 ・入学前教育(プレスクール・入学前課題) ・担任面談 ・休憩時間や授業中での教員(特に担任)の声掛け ・放課後補習 ・転科の支援						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 令和3年4月より対象						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 評価団体:私立専門学校等評価研究機構 評価受審年月日:平成24年3月31日 評価団体:一般社団法人専門職高等教育質保証機構 評価受審年月日:平成31年2月15日						
当該学科のホームページURL	http://www.osaka-hightech.ac.jp/common/doc/school/approval/sinkyu_sp.pdf						

(留意事項)

2. 就職等の状況(※2)

3. 主な学修成果(※3)

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

鍼灸治療の専門技術は経験に裏づけされた技術であるため、熟練した現場の鍼灸師からの指導が重要である。また、スポーツ・健康分野は常に行政の動向や社会のニーズを把握し、業界の情報を収集して学校教育に反映させることが求められている。さらに対人援助職として求められるコミュニケーション能力などの社会人基礎力についても、業界からの意見を反映して教育指導にあたらなければならない。業界などの意見を計画的に収集する手段の一つとして、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は理事会直轄の独立した委員会組織であり、学内の教務部や事務部とは別に運営される組織である。教育課程編成委員会の位置付けについては、「学校法人大阪滋慶学園 教務組織規則」「学校法人大阪滋慶学園 教育課程編成委員会規定」および組織図に明記されている。教育課程編成委員会の意見は学校内で十分に検討した上で、学科のカリキュラムや教育指導内容に反映する。反映にあたっては鍼灸スポーツ学科の学科長をはじめとする学科教員が主体的に行い、必要に応じて教務部長、事務局長、学校長と相談・了承のうえ反映する。学則変更を伴う場合は、理事会の承認を得たうえで反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
上田 忠佳	DSファーマバイオメディカル株式会社	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
永井 慎	NPO法人 日本バイオ技術教育学会 岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
赤澤 夏郎	株式会社プレンプロジェクト	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
鈴木 謙三	マテック八尾(八尾経営・技術交流会)	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
前田 茂	一般社団法人 メディカル・フィットネス協会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
清田 源	株式会社 パーフェクトトレーナーズ	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
増井 英明	公益社団法人 大阪府柔道整復師会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
錠内 千佳江	柔之道整骨院	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	③
尾崎 卓宏	ホリスティックメディカルジャパン	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
志和 輝彦	有限会社 J-RADIANCE かがやき整骨院	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
丹波 徹二	公益社団法人 大阪府鍼灸師会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
木村 辰典	木村鍼灸院	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
杉浦 正人	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会 関西医科大学香里病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
宮本 哲豪	宗教法人 在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
小嶋 宏典	社会医療法人 祐生会 みどりヶ丘病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
徳永 政敬	一般社団法人 兵庫県臨床工学技士会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
佐原 朋広	公益社団法人 大阪府診療放射線技師会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
藤田 秀樹	公益社団法人 大阪府診療放射線技師会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
石田 貴大	株式会社 互恵会 大阪回生病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
福西 康修	医療法人 友誼会 彩都友誼会病院 公益社団法人 日本放射線技術学会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は年2回の実施(7月・1月)

(開催日時)

第1回 令和3年7月中旬実施予定 18:30～20:30

第2回 令和4年1月中旬実施予定 18:30～20:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
「世界標準の消毒法の処理を習得すべきである」とご指摘いただいた。クリーンニードルテクニック導入に向けて、酒精綿の使用数が増加するため、コスト増が心配されたが、枚数管理を周知することでコスト増は抑制できた。指サック・グローブ導入については、手技や灸施術の問題もあり、継続して導入方法を考えていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
実習担当者には評価表による個別評価を依頼している。学内では臨床的かつ現場的な知識・技術の習得を目指し、臨床・スポーツ現場にはそれを実践できる場を求めている。企業等の選定はその目的にかなう所であり、担当のスポーツトレーナーが教育的概念を持っていることを条件としており、担当者の直接的指導下で実習ができる所としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
スポーツトレーナーが活躍している実習先で、競技特性に合わせた技術やスキルを学ぶ。また、社会の一部に触れることによって、社会人基礎力も含めた総合力を身につける。企業(担当者)には最先端の知識や技術を教えていただいている。また、専任教員が現場担当として活躍する場面もあり、学生と一緒に帯同し知識・技術を教えている。学内の実習では基本的には専任教員のみである。(企業からのオリエンテーションなどは除く)

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
トレーナー実習Ⅰ	スポーツ現場等での実習を通じ、学習内容の活用法を学び、職業訓練に繋げる。	パナソニックインパルス (アメリカンフットボール)
予防とコンディショニングⅠ	コンディショニング理論を学び、ストレッチングを中心に実際のコンディショニングの手法を修得する。	パワーフロンティア
検査・測定と評価	目的や競技特性に応じた身体機能・体力測定から選手の特徴やトレーニング課題を見つけられる知識と技術を修得する。	fceasy02
トレーニング科学Ⅱ	パーソナルトレーニングまたはチーム単位のストレングストレーニングについて実践力を身につける。	フィジカルバンガード
救急処置法Ⅱ	スポーツ外傷、傷害発生時に行う適切かつ迅速な救急手当を修得する。	ユニチカフェニックス (ラグビー)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
鍼灸師やトレーナーは常に世の中のニーズや行政の動向に敏感に反応しなければならないため、教員自身が専門分野について学ぶ研修の充実が必要である。また、学生の変化(学力、意欲等)も多様化しているため、授業の方法などについても新たな取り組みが必要である。このようなニーズを踏まえて、専門分野に関しては職能団体等が行う研修や学会に参加することを奨励し、また学内ではFD活動など授業方法の改善に関する研修を実施している。学校内および学園内で実施する研修は原則として参加が義務付けられており、学外で実施される研修については、教員の代表者が出席してその内容について会議等で報告することとなっている。研修に於いては、学校法人 大阪滋慶学園 教員研修規定に定められている。

(2)研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等
研修名:「第44回教員研修会」公益社団法人 東洋療法学校協会
期 間:令和2年8月27日(木)・28日(金)
東洋療法学校協会に登録されている学校で勤務する教員対象。「はり」や「きゅう」をはじめとする「人に優しい」東洋医学の魅力や、どう生徒や一般の人々に伝えていけるか・理解してもらえるかを東洋医学の原点に立ち返り模索し、今後の研究・授業に活用。学校協会と各学校の連携を強くし、鍼灸業界発展のための研修となる。
②指導力の修得・向上のための研修等
※昨年度全ての研修が中止となったため、一昨年の参加研修を記載(リモート開催もなし)。
研修名:「第2回関西地区教員研修会」公益社団法人 東洋療法学校協会
期 間:令和元年3月29日(水)
テーマ:①「あはき養成施設における問題点」 ②「各校において対応に苦慮する事象」
日々変化する種々の問題や課題を解決し、より良い学校教育の実現と教員間でのコミュニケーションを図ることを目的として、関西地区教員研修会を実施。

(3)研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等
研修名:「第45回教員研修会」公益社団法人 東洋療法学校協会
期 間:令和3年8月19日(木)・20日(金)2日間開催予定。
テーマ:「教育アップデート～新しい教育課程の運営と授業デザイン～」
②指導力の修得・向上のための研修等
研修名:「第3回関西地区教員研修会」公益社団法人 東洋療法学校協会
期間:令和4年3月開催予定。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校の諸活動においてその方針と評価結果を公表することは、開かれた学校として当然の責務であり、また学校外の方々からフィードバックをいただくことは学校運営の改善につながることもである。
本校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、毎年、自己点検・自己評価を実施する。その結果について学校関係者評価委員会において説明を行い、学校関係者評価委員より評価をいただいている。学校関係者評価委員会には、学校長や教務部長などととも、学校関係者の代表として学生の保護者、卒業生、高等学校、地域、業界からが委員として参画している。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育人人材像、学校の特色、学校の将来構想
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事制度、意思決定システム、情報システム
(3)教育活動	学科の教育目標、教育到達レベル、カリキュラムの体系化と科目配置、キャリア教育、授業評価、教員の確保、教員研修、成績評価基準、資格取得指導
(4)学修成果	就職率、資格取得率、退学率、学生・卒業生の社会的活躍
(5)学生支援	就職支援、学生相談、経済面支援、健康管理体制、課外活動、生活環境支援、保護者連携、卒業生支援
(6)教育環境	施設・設備、学外実習、防災体制
(7)学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の開示、入学選考、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	法令遵守、個人情報保護、自己点検・自己評価とその公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献活動、ボランティア活動
(11)国際交流	国際交流の取組み

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での議事内容、および学校関係者評価委員より得られた意見等は速やかに学内で討議を行い、必要に応じて具体的な改善を図る予定である。現状は退学率・資格合格率改善を目標に月1回教員全員参加の会議を行い、意見交換・事例発表等を行っている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
林 明美	保護者代表	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	保護者代表
谷本 みゆき	保護者代表	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	保護者代表
田中 幸恵	近隣関係者	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	地域代表
釜本 浩明	精華高等学校	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	高等学校
胡本 晃敏	生命工学技術科卒業生	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	卒業生代表
木村 政義	臨床工学技士科卒業生 兵庫医科大学病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	卒業生代表
小西 正和	ナカライテスク株式会社	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
坂本 俊雄	一般社団法人 i-RooBO Network Forum	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
臼井 達也	学校法人 大阪成蹊大学	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
尾藤 何時夢	公益社団法人 和歌山県柔道整復師会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
奥本 憲司	公益社団法人 大阪府鍼灸師会(奥本鍼灸院)	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
山本 桂	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会(医療法人 蒼龍会 井上病院)	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
山口 道弘	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL:http://www.osaka-hightech.ac.jp/common/doc/school/disclosure/09_gakko_hyoka3.pdf

公開時期:毎年7月末

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
自己点検・自己評価結果等、学校運営や教育活動に関連する情報については、積極的に公開して広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	建学の理念、大阪滋慶学園について、学校の沿革
(2)各学科等の教育	教育システムと教育スケジュール、学科の教育目標、教育課程、学科紹介、学年暦
(3)教職員	学校長挨拶、教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学外実習、学外研修の手引き、特別講義・業界講演、海外研修、卒業研究・課題研究、就職フェア、生涯教育システム
(5)様々な教育活動・教育環境	入学前教育、資格サポート、就職サポート、施設・環境
(6)学生の生活支援	学校生活サポート、Work & Study、クラブ活動・学生寮、保護者説明会
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧、学費サポート
(8)学校の財務	法人財務状況
(9)学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価、第三者評価
(10)国際連携の状況	国際交流
(11)その他	社会貢献・地域貢献、高専連携、ボランティア活動

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<http://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure/>

ホームページにて情報の開示

授業科目等の概要

(医療専門課程鍼灸スポーツ学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			心理学Ⅰ	スポーツと心の関係、また、コーチングやトレーニングにおける心理的側面について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			心理学Ⅱ	スポーツ領域で活用される心理学理論、手法を学ぶ。	1後	30	2	○	○		○			○	
○			栄養学Ⅰ	基礎栄養学をスポーツと関連付けて学び、アスリートに対する栄養指導のあり方を理解する。	2前	30	2	○	○		○			○	
○			栄養学Ⅱ	過剰摂取や欠乏症など栄養に関わる諸問題を学び、栄養指導について深く掘り下げる。	2後	30	2	○	○		○			○	
○			医療情報学	診療プロセスに対する医療情報学の役割、医療現場で必要となるコミュニケーション技術を学習する。	1前	30	2			○	○			○	
○			健康管理学Ⅰ	スポーツの文化的、社会的意義、また地域スポーツのあり方について学ぶ。	1前	30	2			○	○			○	
○			健康管理学Ⅱ	スポーツ指導者としての心構え、スキル、チームマネジメントについて学ぶ。	1後	30	2			○	○			○	
○			解剖学Ⅰ	骨学・筋学・神経学を学ぶ。この教科を学ぶことで他の科目の基礎とする。	1前	60	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	内臓・脈管について学ぶ。構造や機能を学び、生理活動を理解する。	1後	60	2	○			○			○	
○			検査・測定と評価	目的や競技特性に応じた身体機能・体力測定から選手の特徴やトレーニング課題を見つける学習を行う。	1通	60	2	○			○			○	
○			生理学Ⅰ	循環や呼吸、代謝など人体で営まれる植物機能と内臓の機能と構造について学ぶ。	1前	60	2	○			○			○	

○		生理学Ⅱ	神経系の機能や筋の機能、身体運動の調節について学ぶ。	1後	60	2	○			○	○		
○		基礎運動学	骨学・筋学・神経学の構造・機能や、関節の運動について総合的に学習する。	1通	60	2	○			○	○		
○		病理学	各種疾患の原因について学ぶ。病的変化を覚え、正常との違いを明確にする。	2通	60	2	○			○	○		
○		臨床医学総論	各種疾患を系統立てて概要を理解する。臨床的思考を確立する。	2通	60	2	○			○	○		
○		臨床医学各論Ⅰ	外科・整形外科等について学ぶ。各疾患の特徴を覚える。	2前	60	2	○			○	○		
○		臨床医学各論Ⅱ	内科・泌尿器科・産婦人科等について学ぶ。各疾患の特徴を覚える。	2後	60	2	○			○	○		
○		公衆衛生学	健康の概念、環境衛生、感染症、消毒、疫学を中心に学習する。	1後	30	1	○			○	○		
○		リハビリテーション医学Ⅰ	機能回復訓練等の理論について学ぶ。	2前	60	2	○			○	○		
○		リハビリテーション医学Ⅱ	機能回復訓練等の実践方法について学ぶ。	2後	30	1	○			○	○		
○		関係法規	はり師きゅう師に関する法律を学ぶ。	3前	30	1	○			○	○		
○		医療概論	医学の歴史や医療の現状について学ぶ。	1前	30	1	○			○	○		
○		医療倫理学	新しい医の倫理の原則を学ぶとともに、鍼灸師に求められる職業人としての心構えを学ぶ。	1後	30	1	○			○	○		
○		鍼灸理論	鍼灸の治効理論や科学的背景を学習する。	3前	30	1	○			○		○	
○		経絡経穴学Ⅰ	流注や経穴の名称を学習する。	1前	60	2	○			○	○		

○		経絡経穴学Ⅱ	経穴の位置を学習する。解剖学的理解を深める。	1後	60	2	○			○		○		
○		東医基礎学Ⅰ	東洋医学の歴史・東洋医学的治療論を学び、中医の基礎を理解する。	1前	60	2	○			○		○		
○		東医基礎学Ⅱ	東洋医学の生理・病理・思想を学び、中医学の考え方を理解する。	1後	60	2	○			○		○		
○		東医診断学	中医基礎理論に基づき、伝統中医鍼灸治療の為の診断方法を学習する。	2前	60	2	○			○		○		
○		東医治療学	中医診断学に基づき、伝統中医鍼灸治療の為の治療理論を学ぶ。	2後	60	2	○			○		○		
○		鍼灸診断学	診察・検査・カルテ記載方法について学ぶ。	2前	60	2	○			○		○		
○		鍼灸治療学	運動器系および鎮痛を必要とする疾患について鍼灸治療法を学ぶ。	2後	60	2	○			○		○		
○		東医臨床学	鍼灸治療が行われている疾患のうち、東洋医学的治療法の知識を深める。	3通	60	2	○			○				○
○		鍼灸臨床学	鍼灸治療が行われている疾患のうち、現代医学的治療法の知識を深める。	3通	60	2	○			○				○
○		臨床総合学	鍼灸臨床現場で診る機会が多い疾患や症候などを、重点的に学習する。	3前	30	1	○			○				○
○		はりきゅう社会学	資格者として、治療者として、必要な知識などを学ぶ。	3後	60	2	○			○		○		
○		鍼灸基礎実技Ⅰ	施鍼、施灸練習機器等を用い基本を学ぶ。	1前	60	2				○	○		○	
○		鍼灸基礎実技Ⅱ	人体の各部位に対して適切に施術が出来、かつ施術感覚を習得する。	1後	60	2				○	○		○	
○		鍼灸診断実技	診察・検査・カルテ記載方法に基づいて診察診断の実技基礎を習得する。	2前	30	1				○	○		○	

○		鍼灸治療実技	3年生で実施する附属治療所実技で必要となる医療面接・検査法を現代系で学ぶ。	2後	30	1			○	○	○			
○		鍼灸臨床実技	整形外科系や内科疾患の疾患について診断・治療技術を習得する。	3通	60	2			○	○	○			
○		東医診断実技	中医診断学に基づき、伝統中医鍼灸治療の為の診察診断の実技基礎を習得する。	2前	30	1			○	○	○			
○		東医治療実技	3年生で実施する附属治療所実技で必要となる医療面接・検査法を東医学系で学ぶ。	2後	30	1			○	○	○			
○		東医臨床実技	中医治療学に基づき、伝統中医鍼灸治療の為の鍼灸治療技術を習得する。	3通	60	2			○	○	○			
○		経絡経穴実技	経絡経穴学に基づいて実技基礎を習得する。	2前	30	1			○	○	○			
○		鍼灸総合実技	鍼灸治療、鍼灸臨床に必要な技術を学ぶ。鍼灸に関わる技術の向上を目指す。	3通	60	2			○	○		○		
○		附属治療所実技Ⅰ	附属治療所・外部治療院の見学、現場で必要な配慮や対応方法を学ぶ。	2通	90	2			○	○	○			
○		附属治療所実技Ⅱ	附属治療所・外部治療院での臨床実習、医療面接から治療の流れを習得する。	3通	90	2			○	○	○			
○		総合演習Ⅰ	臨床に必要な知識・技能を学習し習得するために、総合的な演習を行う。	3前	30	1	△		○	○	○	○		
○		総合演習Ⅱ	国家試験科目について分析を行い、それに基づいて学習する。	3通	270	9	○	△	○	○	○	○		
○		東洋医学演習	海外の大学において人体の基礎の学習および中医病院の見学などを行う。	2後	30	1			○	○	○	○		
○		救急処置法Ⅰ	緊急時に必要な救急処置を冷静沈着に行えるよう、正しい知識と技術を習得する。	1前	30	1			○	○	○			
○		救急処置法Ⅱ	スポーツ外傷、また障害発生時に行う適切かつ迅速な救急手当を習得する。	1後	30	1			○	○	○	○		

○		スポーツ医学概論Ⅰ	スポーツ指導者に必要な医学的知識を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○	○
○		スポーツ医学概論Ⅱ	身体の仕組みと働き、成長や性による特徴などをスポーツ医学の見地から学ぶ。	2前	30	2	○			○		○	○
○		スポーツ内科学	スポーツ選手に見られる内科的疾患について学ぶ。	3前	30	2	○			○		○	○
○		スポーツ外傷論Ⅰ	体幹および上肢のスポーツ外傷・障害について学ぶ。	2後	30	2	○			○		○	
○		スポーツ外傷論Ⅱ	下肢のスポーツ外傷・障害および頭頸部などにおける重篤な傷害について学ぶ。	3前	30	2	○			○		○	
○		トレーニング理論・実習	トレーニング理論を運動生理学と機能解剖学をベースに学ぶ。	1前	30	1	△	○		○			○
○		トレーニング総合演習	正しいトレーニング理論のもと、様々なトレーニング手法を学び、実践する。	1後	30	1	△	○		○			○
○		アスレティックトレーナー概論	アスレティックトレーナーとしての基礎知識を歴史、業務、組織運営など多様な角度から学ぶ。	1前	30	2	○			○		○	
○		トレーニング科学Ⅰ	スポーツ動作におけるバイオメカニクスを考慮したトレーニングを学ぶ。	2前	30	2	○			○			○
○		トレーニング科学Ⅱ	パーソナルトレーニングまたチーム単位のストレングストレーニングについて実践的に学ぶ。	2後	30	2	○			○			○
○		予防とコンディショニングⅠ	コンディショニング理論を学び、ストレッチングを中心に実際のコンディショニングの手法を習得する。	2通	60	2	○			○		○	
○		予防とコンディショニングⅡ	コンディショニング理論を学び、テーピング、トレーニング、マッサージなどの手法を習得する。	3前	30	1	○			○		○	
○		アスレティックリハビリテーションⅠ	アスレティックリハビリテーション理論を学び、目的別、部位別のプログラムを作成、実践する。	2後	30	1	○			○		○	
○		アスレティックリハビリテーションⅡ	アスレティックリハビリテーション理論を学び、部位別、競技別のプログラムを作成、実践する。	3前	60	2	○			○		○	

○		水泳実習	健康運動実践指導者受験のための必須科目。水中運動、基礎泳法、安全管理法の理論と基礎技能を習得する。	1 後	30	1	△		○	○	○	○	○	
○		トレーナー実習Ⅰ	スポーツ現場等での実習を通じ、学習内容の活用法を学び、職業訓練につなげる。	2 通	60	2	△		○	○	○	○	○	○
○		トレーナー実習Ⅱ	スポーツ現場等での実習で経験したケガの処置や体験などを他学生にカンファレンスし、全員で共有する。	3 通	120	4	△		○	○	○	○	○	○
合計			70科目						半 位					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
所定の科目全てに合格し、かつ出席率が67%を超えていることが必要	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。